

浜松市生活支援体制づくり協議体（第2層、高丘圏域） 第1回会議 議事録

開催日時	令和3年10月5日（火）14時00分から16時00分まで
参加者	委員16名、関係機関12名
場所	北部協働センター 第2・3講座室
内容	<p>1. 開会</p> <p>2. 挨拶 萩丘中、葵・高丘地区生活支援体制づくり協議体 会長</p> <p>3. 協議事項</p> <p>■昨年度までの振り返り 浜松市社協 浜松地区センター副センター長より、パワーポイント資料を用いて協議体会議開催の背景について説明し、昨年度までの会議について振り返りを行った。</p> <p>■生活支援コーディネーター地域訪問報告 生活支援コーディネーターより、パワーポイント資料を用いて訪問した小豆餅の様子について報告。</p> <p>■認知症サポーター養成講座 地域包括支援センター高丘より</p> <p>①講義：「認知症とは」 地域包括支援センター高丘より、認知症とは何かや関わり方のポイントなどについて学んだ。</p> <p>②DVD 視聴：「認知症の人と接する時の心構え」 実際に地域でゴミを捨てる日を間違えている高齢者がいたら、どのように対応するかについてDVDで例を視聴した。</p> <p>③演習：「もし自分が認知症だったら、どのように接してもらいたいか。」</p> <p><グループワークで出た意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族から近所へ、ある程度家庭状況を言ってもらえると関わりやすい。一方で、家庭状況を隠してしまうこともあり、自ら地域と距離を置いている。 ・実際にゴミ捨て場で困っている人に会っても、その対応が難しい。知らない人には話し掛けられない。 <p>→特別な声掛けではなく、挨拶から始めればいい。不自然だった時に異常を感じる事が出来る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誰とでも話が出来るようにしていく為には、小さい頃からの福祉教育が必要。今回の認知症サポーター養成講座の子ども版のようなことが出来たら広まっていくのではないか。子どものうちから助け合うことは当たり前だと思えるようにしたい。 ・身近に認知症の人がいなかったり、認知症かどうか見た目では分からなかったりする為、判断が難しい。 <p>4. 次回以降の会議日程について 2022年1月頃を予定。</p> <p>5. 連絡事項 特になし</p>

	6. 閉会 萩丘中、葵・高丘地区生活支援体制づくり協議体 副会長
今後の見通し等	今後、認知症に優しいまちづくりの為に何が必要か詳しい話し合いを行っていく。その為に、地域活動を把握し認知症予防や啓発にどのように関わっているのか調査をすすめていきたい。